

平成25年度

同好会事業報告

哲学同好会

世話係 寺島寿一

会長名 中村竜太

月日	実施した事業内容	参加人員
7月6日	講演会「ふるさと竹内塾」への参加 講師 竹内整一先生 (鎌倉女子大学教授/東京大学名誉教授) テーマ 「おのずから」と「みずから」 — 言葉と人のつながり・死者とともに生きる — 場所 須坂市本上町 勝善寺	8人
8月1日	夏期講演会及び哲学を語る夕べ 講師 後藤一磨さん (東日本大震災被災地南三陸町語り部 ・宮城大学非常勤職員) 講演内容 自ら被災し、避難所での生活を通じた経験から、 「生きる」ことについてお話をいただいた。 場所 須坂市南原町 普願寺	17人

本年度、哲学同好会は会員二十二名で発足しました。

初夏の研修会は、七月六日に勝善寺に於いて行われた、今回で四回目となる「ふるさと竹内塾」に参加させていただきました。テーマは「おのずから」と「みずから」～言葉と人のつながり・死者とともに生きる～でした。うーん、私の様な凡人にとってはテーマからして不可解。そもそも「哲学」とは、「???な言葉が頭の上を飛び交うもの」というイメージのある私は、おそろおそろと参加したのですが、決して不可解なものではありませんでした。竹内整一先生（鎌倉女子大学教授・東京大学名誉教授）は「私たちが普段使っている言葉を改めて吟味し、今の現実をもう一度考え直してみたい。」というお考えのもとに、やまと言葉から読み取れる生命観について、大変分かりやすく話してくださいました。中でも私が深く考えさせられたのは、「命」という言葉をとりあげ、「その意味や尊さをどのように子どもたちに伝えるのか。『いじめはいけない。いじめをなくそう。』と言うが、生物を生かしていく根源的な力＝命、を周りはどうやって救うのか。それを考える力をもたせたい。」というお話でした。

夏期講演会では、八月一日に普願寺において、南三陸町からお出でいただいた後藤一磨さんに、自ら被災し避難所での生活体験を通じたお話を伺いました。私たちは、あの巨大な刃のような津波や瓦礫と化した街の映像をテレビ報道で見て、その恐ろしさに萎縮し、また衝撃を受けました。しかし、今回の後藤さんの淡々とした語りの中に、報道では伝わらなかった生死を分けたあの場の「空気」にふれました。そして、後藤さんが今ここに在

ることに畏敬を感じ、生きている私たちが「生きる」事の尊さをかみしめた時になりました。この日、夕刻の懇親会での、北海道産ラム肉と南三陸の魚介類のバーベキューも忘れられません。

(会長 中村 竜太)